

# ふれあい感謝祭でお披露目 329万 m<sup>3</sup>増設完了

## 三重中央開発

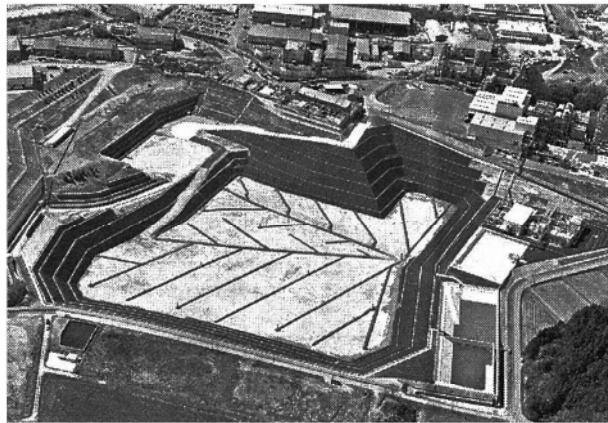
# 国内最大規模の管理型処分場



感謝祭であいさつする  
金子社長

大栄環境グループの三重中央開発（三重県伊賀市、金子文雄社長、☎0595・20・1119）は4月5日、近隣の地元住民を招いて「ふれあい感謝祭」を開催するとともに、増設工事が完了した管理型最終処分場のお披露目を行った。伊賀市

長などが来賓として出席し、計約2100人が参加。処分場の埋立容量は約329万立方メートル増え、国内最大規模の616万5896立方メートルとなった。感謝祭の冒頭、金子社長は、「創業から35年間、環境負荷の低減に力を注ぎながら事業の充実を図り、現在、業界ではトップクラスの規模に成長させてい



増設した管理型最終処分場

ただいた。2013年秋には廃棄物複合リサイクル施設「エネルギープラザ」が稼働開始し、このたび埋立処分場の増設工事も完成。これらとあわせて地域の皆さまのご理解のおかげで、感謝の気持ちを少しでも伝えたい」とあ

いさつ。会場は、地元企業や同社社員による屋台、ステージイベントなどで賑わった。処分場増設工事の施工会社は大林組（水処理施設は栗田工業）で、総投資額は50億円（水処理施設含む）。敷地面積は28万131平方メートル（増設部分10万2172平方メートル）で、埋立面積21万6491平方メートル（同7万3542平方メートル）となった。4月7日から増設部分の供用を開始しており、埋立期間は22年間を予定している。

受け入れ品目は、産業廃棄物が、燃え殻▽汚泥▽ゴムくず▽廃

プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）▽紙くず▽木くず▽繊維くず▽動植物性残さ▽金属くず▽ガラスくず等（石綿含有産業廃棄物を含む）▽鉋さい▽がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）▽ばいじん▽処分するた

めに処理したもの▽特定有害廃石綿等。一般廃棄物は、▽し尿処理施設および生活排水処理施設から発生する汚泥等▽粗大ごみ▽焼却灰―となっている。また、浸出水の処理能力は1日当たり500立方メートル。生物処理において国内で初めてアノモックス菌を導入し

た。蒸気濃縮設備を設置したことにより、処理水をそのまま河川へ放流せず、既存の焼却施設の蒸気を利用して凝縮水を得ることができ、これをプラント用水として社内循環利用し、排水のクロロスド化を図っているという。